

ふるい都議会をあたらしく ～議会改革進捗状況～

ペーパーレス化



令和元年6月第二回定例会から、本会議での資料はタブレット端末を導入し、ペーパーレス化を推進。年間43万枚の紙の削減と、人件費削減。今後委員会にも導入し、さらなる効率化を目指す。

都議会のインターネット中継



今まで本会議場の中継はしていたが、委員会では中継されていなかった。令和元年6月第二回定例会から、総務委員会で試行を始め、9月第三回定例会から全常任委員会でインターネット中継がスタート。

公用車削減

平成30年度から22台あった公用車を正副委員長や会派役員の公務に限った運用に見直し13台削減。年間2億円→8千万円（1億2千万円削減）

議会棟全面禁煙

平成30年4月から健康増進法や東京都受動喫煙防止条例に先駆けて、議会棟レストランを含め全面禁煙化。

今後も不断の見直しを行ってまいります！

政務活動費での飲食支出

平成29年度当選後すぐ、政務活動費の飲食にともなう会合での使用を問題視。私は支出ゼロ！
1210万円（平成28年）→124万円（平成29年）

議員報酬20%削減

当選以来議員報酬20%削減を毎年議決。様々な改革を進める上で、まずは自らの報酬を削減。

都政・都議会についてのご意見・ご要望をお聞かせください

連絡先

村松一希事務所

〒178-0063 練馬区東大泉5-41-27-301
TEL : 03-6904-4404 FAX : 03-4243-2441
MAIL: info@k-muramatsu.com

東京都議会議員（練馬区選出）

村松 一希

1981年4月8日生まれ（39歳）。中央大学法学部法律学科卒業。平成23年練馬区議会議員初当選（2期）、平成29年東京都議会議員初当選。平成30年10月～公営企業委員会副委員長。令和2年10月から環境建設委員会所属。



都営大江戸線の延伸に向け着実に推進！

都営大江戸線延伸への道のり

昭和60年（1985年）運輸政策審議会第7号答申により
光が丘から大泉学園町までの路線を整備する方針が追加
平成12年（2000年）都営大江戸線全線（現在の区間）開業
平成25年（2013年）補助230号線笹目通りから土支田通り区間開通
平成27年（2015年）東京都広域交通ネットワーク計画について「整備について優先的に検討すべき路線」5路線の一つに選定
平成28年（2016年）交通政策審議会答申第198号において「進めるべき6つのプロジェクトの一つ」に位置づけられる

延伸にむけての課題

- 1、導入空間
地下鉄は道路の下を走っています。延伸予定地域の道路は現在整備中で、土支田通りから外環道までの第1期工事850mは用地取得率91%（令和元年度末現在）、外環道から大泉学園通りまでの第2期工事1250mは63%。コロナ禍においても着実に推進することを、環境建設委員会（R3.3.16）において要望し、確認しました。
- 2、事業採算性
採算の見通しがつかなければ延伸は難しい状況です。その計算には人口推計、乗降見込み、延伸にあたっての工事費用やランニングコストなどが考慮されるわけですが、昨年の予算特別委員会質疑においてトンネルや駅の構造、課題となっていた車両の留置施設の規模や機能等について検証している状況を確認。またランニングコストの圧縮を提案し、収支採算の確保、早期実現を要望しました。コロナ禍により都営大江戸線も乗客数減となり、収支採算の見通しに影響がでないか注視しています。

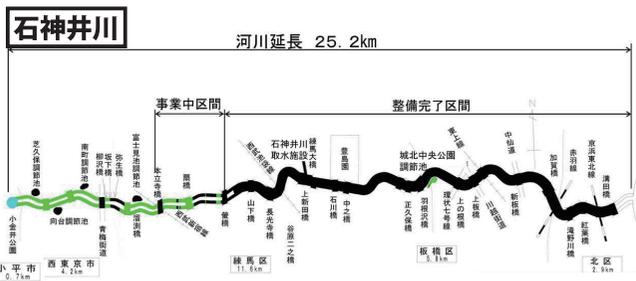


大江戸線の導入空間となる補助230号線が一部（土支田三丁目～大泉町二丁目まで約200m）交通解放されます！令和3年3月20日7時30分より（式典等は行われません）

大江戸線延伸早期実現にむけて
全力で取り組みます！



豪雨対策を着実に進めるよう要望！



白子川三ツ橋付近(東大泉2)の改修前



白子川三ツ橋付近(東大泉2)の改修後



令和3年3月16日環境建設委員会質疑抜粋

Q1、中小河川の豪雨対策について伺う。

近年の激甚化・頻発化する豪雨に対して、整備効果の高いものが護岸整備と調節池整備であると理解している。

そこで、まず中小河川整備の目標とその達成時の治水効果について伺う。

答弁(建設局)

都は、昭和40年代から時間50ミリに対応する整備を進めてきたが、近年これを上回る局地的な集中豪雨が増加している傾向を踏まえ、平成24年に「中小河川における都の整備方針」を策定し、目標整備水準をこれまでの時間最大50ミリから、区部時間最大75ミリ、多摩65ミリに引き上げ。

目標整備水準を達成した場合、都内中小河川流域に戦後最大の被害をもたらした狩野川台風に加え、時間100ミリの局地的短時間の豪雨にも効果を発揮し、溢水を防止することが可能。

近年、中小河川流域に浸水被害をもたらした113の降雨のうち、98%に当たる111の降雨において河川から溢水はしないなど、大きな効果を発揮することを確認。

Q2、この新たな目標における整備によって、非常に大きな効果が発揮されている。近年の豪雨の傾向を踏まえ、早期に安全性が向上するよう、効率的に整備を進めていくことが重要。そこで、中小河川整備をどのように進めているか伺う。

答弁(建設局)

新たな目標整備水準に対応した整備は、平成26年に改定した「東京都豪雨対策基本方針」において、石神井川など9つの対策強化流域を設定し、優先的に実施中。

整備に当たっては、時間50ミリまでの降雨は護岸整備で、それを超える降雨には道路や公園等、用地取得の必要がない公共空間の活用を基本とした新たな調節池等で対処。

Q3、整備する場所は、メリハリをつけて、護岸整備と調節池は役割分担を定めて対策を進めていると理解。限られた予算を有効に使い、最大限の効果を生み出す必要がある。今後とも、河川の特性を踏まえ、効率的に整備を進めるべき。

練馬区には白子川と石神井川が流れている。石神井川では、平成17年9月には溢水被害も発生しておりその後の令和元年の台風19号では氾濫危険情報が発表された。また、河川周辺の住宅では浸水被害も多々起こり、河川の整備による早期の安全性向上が必要。

昨年の事務事業質疑で、白子川と石神井川の護岸と調節池の整備状況を確認し、石神井川の中流域において、城北中央公園調節池の第一期工事を令和7年度末の完成を目指し実施していることを確認。

地域住民の安全性を高めていくために、護岸や調節池の整備は重要であり、着実に推進すべき。

そこで、練馬区内における白子川と石神井川の令和3年度の取組みについて伺う。

答弁(建設局)

令和3年度は、白子川では、東西橋下流で工事を実施。

石神井川では、都営上石神井アパート付近と扇橋上流の2か所で新たに護岸整備に着手。

城北中央公園調節池については、貯留量約9万立方法メートルの第一期工事で調節池本体の掘削を本格化。

さらに、約16万立方法メートルの第二期工事を新たに事業化し、主要構造や施工計画などを検討する基本設計に着手。

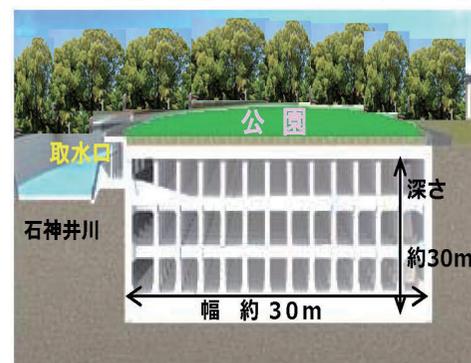
村松まとめ

城北中央公園調節池の第二期工事が新たに事業化されるということで、早期運用を期待。

護岸整備も調節池整備も、すぐに出来るものではない。

コロナ禍における厳しい社会情勢の中においても、都民の安全性を高めるための河川整備はスピードダウンせず、着実に実施するよう要望。

城北中央公園調節池第一期工事完成イメージ図



答弁(建設局)

捕獲した魚類等については、ブルーギルなどの外来種は駆除し、モツゴやギンブナなどの在来種については、池干し後再湛水するまでの間、一時的に保護している。

現在、再湛水を実施しており、湛水後は、在来種を池に戻す予定。

来年度は、他の公園と同様に、水質の調査や生物の生息状況に関するモニタリングを実施していく。

村松まとめ

今後しっかりモニタリングを行い、定期的にかいぼりを実施する必要がある。次回実施時には今回の経験を活かして実施するとともに、地域を巻き込み、イベントとして実施するよう要望。

石神井公園かいぼりについて

Q1、コロナ過で都立公園の重要性はさらに上がった。一方で管理が行き届いていないと指摘をされることも多い。

現在実施している石神井公園のかいぼりの状況と今後の予定を伺う。